

眼有效、絞汁入眼亦佳、又傳臙瘡愈、

〔重修本草綱目啓蒙〕八水仙 セツチウクハ下學 ハルタマ大坂 キンダイ房州 今ハ通名

一名凌波客花鳥 水鮮草花 凌波僊子典籍 凌波子名物 雅蒜汝南 雅客事物 儷蘭三

記 配玄同上 銀臺金盞中山傳 增一名女星三餘 歲寒友雜學 女史花內觀 姚女兒花

同上 波上靈妃事物 栗玉花同上 黃玉花同上 玉蕊花同上

花ニ單瓣アリ、千瓣アリ、單瓣ノモノヲ金盞銀臺ト云フ、同名アリ、銀ノ盃托ニ金ノ盞ヲ載タルニ

象ドレリ、千瓣ノ者ハ一瓣ゴトニ黃色ナルモノアリテ、盞ノ形ヲナサズ、コレヲ玉玲瓏秘傳ト云

フ、又一種千瓣ニシテ淡綠色ナル者稀ニアリ、コレハ白花ノ變ジタルモノナリ、紅花ノモノ越後

ニアリト云、然ドモ未ダ見ズ、群芳譜ニ、唐玄宗號國夫人ニ、紅水仙十二盆ヲ賜ルコトアリ、名花譜

ニ諺曰、五月不在土、六月不在房、栽向東籬下、花開朶朶香、汝南圃史ニ五ヲ六ニ作り、六ヲ七ニ作り、

花開ヲ寒花ニ作ル、水仙單葉ノ者ハ皆六瓣ナリ、而ルニ時珍五尖ト云者ハ誤レリ、諸書ニ多クコ

ノ誤ヲ襲フ、タゞ廣東新語ニ六瓣ト云是ナリ、本邦タマタマ變ジテ五瓣ナル者アレバ最奇品ト

ス、又酉陽雜俎榛祇ノ文ハ、十四卷山奈ノ條ニモ引テ山奈ノコトトナス、此ニハ水仙ノコトトス、

水仙ノ説ヲ是トスベシ、

増、一種重瓣淡紫ノモノアリ、又蠻産ノモノアリ、文政十三年ニ舶來ス、奇品ナリ、

〔廣益地錦抄〕五水仙 今多く草花につくり、冬の詠とせり、略○中水仙の根をこまかにして粘にお

しませ、指いたみて腫るに付て甚妙也、又らう地の紙に書たる文字をぬぐひとるに、水仙の根の

切りにすりて取れば、紙にあとなくとれるといへり、すり取に墨付たるをば殺て、新なる所に

て、數遍すりぬぐふべしとぞ、

〔草木育種〕下美花〔水仙〕草 農業全書の植法は、夏中根の塊を堀出して日に乾、人糞汁に浸置、又採出